

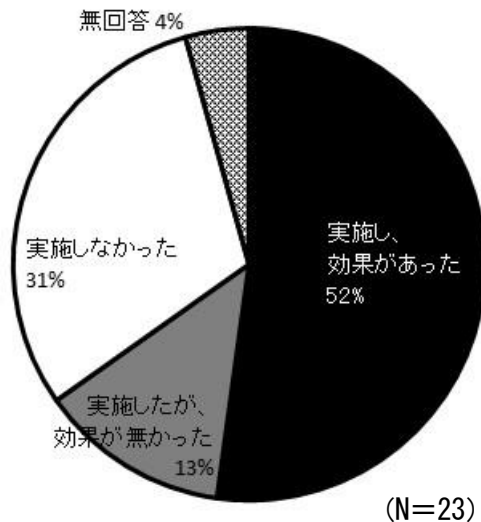
コミュニティ推進計画にかかる アンケート結果報告

温海庁舎総務企画課

項目 1. 多様な人材の活用と役員等の負担軽減に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 役員負担軽減につながる効果的な組織体制の見直し
- 各種団体の統合や組織の見直しによる、単位自治組織役員負担軽減
- 若者や女性、高齢者の活躍の場の拡充



多様な人材の活用と役員等の負担軽減の取組状況について、「実施し、効果があった」(52%)、「実施したが、効果が無かった」(13%)と6割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が31%あり、中には、「人材というより人が少ない」「今後役員になる世代の人口が少ない」という意見があった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・人口の減少に伴い公民館役職員と専門部の見直しを行った。また活動が困難となった団体は廃止することにより負担の軽減にはつながった。
- ・自治会長の会議等への出席を他の役員が代行し、自治会長の出席回数が減り負担が軽減された。
- ・いままで何をやるにも役員がやっていたが、なり手不足の解消に効果があった。
- ・若い人が入ることによって新しい意見が見られた。役員会での議事録作成により要点をついて時間短縮につながる。
- ・世帯数、人口ともに減少する中、役員数を従来のままとし役員一人ひとりに係る負担を軽減した。部員については、集落住民を広く登用しているが人口が少ないことから一定の限界がある。
- ・会社勤めがほとんどのため土日祝日をなるべく多く選んで運営した。
- ・部長制の廃止、役職数の削減。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・高齢化が進み役員の確保が困難です。特に会長職が課題となっております。
- ・青壮年の方々をお願いしても、同じ人しか受けていただけない。
- ・役員の高年齢化を危惧し役員選挙後提案したが、効果は今後の予定。

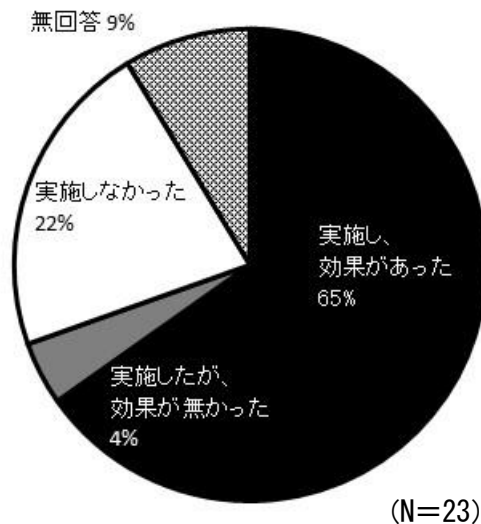
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・昨年は、山形県沖地震への対応におわれてできなかった。
- ・人材というより人が少ない。7人
- ・今後役員になる世代の人口も少ないため、行事の簡素化を検討し始めているところです。

項目 2. 単位自治組織の健全な財政運営に向けた検討を行いましたか？

★取組の具体的事例

- 住民合意に基づく会費収入に見合った事業運営の見直し
- コミュニティビジネスを含めた活動資金の確保策の検討
- 先進事例の研究や講習会等、単位自治組織運営に関する研修の実施
- 公民館類似施設整備に対する財政支援
- 有線放送設備及び新たな情報伝達の仕組みの研究・検討



単位自治組織の健全な財政運営に向けた検討について、「実施し、効果があった」(65%)、「実施したが、効果が無かった」(4%)と7割近く実施しており、各役員の手当の削減などを行い、各世帯の自治会費を軽減し事業を行っている。

一方、「実施しなかった」が22%あった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・有線放送を廃止し、無線による情報伝達システムを導入した。
- ・自治会費の低減、少子高齢化、人口減少に対応するため「温海温泉自治会財政見直し指針」を策定し令和4年度からの実施を予定している。
- ・役員の数削減や行事の見直し等を行い自治会予算の削減をすることができた。
- ・少子高齢化という現状に見合った予算や負担金の徴収を実施。各家庭の負担額が少し減りました。
- ・自治会費などの減額や、等級割の見直しで効果があった。
- ・総合交付金を見直していただき35万増額になった。山形沖地震で会員の収入減少、出費がかさなり大変だった。
- ・少子化に伴い各部の再編及び手当の削減、前年度は削減ができた。
- ・消防団費など従来聖域とされほぼ手つかずであった費目も検討材料とし、予算を減額するなど自治会費の負担を極力増やさないよう努め、従来並みの予算規模を確保している。
- ・自治会費を削減しつつも事業も削減せず行っている。
- ・有線放送、テレビ共同受信組合を統合して維持費の削減を行った。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・会費に見合った事業の見直し→効果とは言えない。

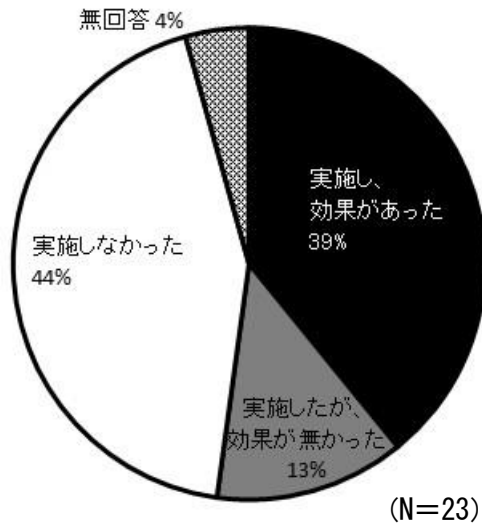
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・庁舎に財政要求しても要求に応じてくれない。(有線放送、通信関係)

項目3. 将来を見据えた単位自治組織のあり方の検討に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 隣接する単位自治組織との情報交換や単位自治組織運営に対する相互協力、共同化の検討
- 地区自治会の今後のあり方の検討
- 単位自治組織と地区自治会との連携や機能・役割分担の検討
- 地区担当職員制度を活用した集落活性化懇談会等の取組による具体的な方策の検討



将来を見据えた単位自治組織のあり方の検討について、「実施し、効果があった」(39%)、「実施したが、効果が無かった」(13%)と5割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が44%あり「現状維持で良い」「自治会としての機能の維持は困難であるが、住民に現状を変えようとする意識がない」といった意見があった。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・地域住民が加入している団体（生産森林組合）との関連性を考慮しながら地縁団体への組織替えについて検討中である。
- ・「温海温泉自治会財政見直し指針」で組織のあり方についても問題提起し現在検討している。
- ・隣接している自治会長と連携を深め、今後の自治会の合併も検討中でもあります。
- ・役員会で今後の自治会のあり方の検討を行った。会員及び役員の負担軽減をしていくことに決まった。
- ・鶴岡市とともに取組みを始めたところです。
- ・10年前より人口、世帯数の推移を作成し将来に向かって危機感の共有ができた。
- ・将来的な自治会活動を見据え、隣組の割り振りを大きく変更した。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・自治組織のあり方については検討中であるが、山形沖地震とコロナで検討がおくれている。
- ・毎年地区自治会で情報交換を行っているが具体的な効果まではない。

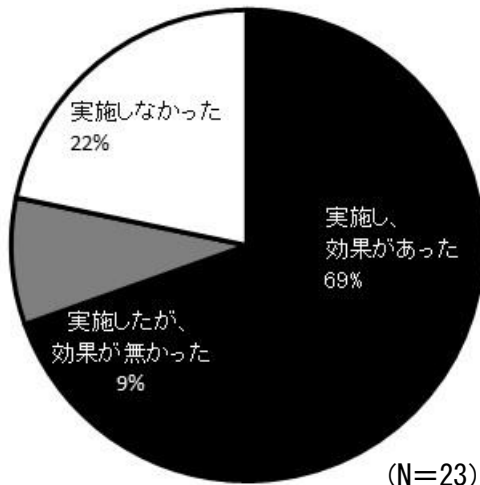
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・将来隣接する単位自治組織との情報交換や単位自治組織運営、地区自治会の今後のあり方の検討。
- ・自治会の取り組むべき優先順位のため。自治会費の削減。
- ・まだ現状維持で良いので。
- ・高齢化によりこのままでは自治会としての機能の維持は困難であるが、住民に現状を変えようとする意識がない。
- ・新型コロナウイルスの影響でしなかった。

項目 4. 防犯・防災への対応に取り組みましたか？

★取組の具体的事例

- 自主防災組織の機能点検を行うと共に、避難訓練や有事に備えた住民同士の話し合いの機会や講習会の開催
- 有事に備えた住民情報の把握と活用方法の検討
- 有事の際の情報伝達システム確立のため、全単位自治組織への防災無線の配備と単位自治組織防災マニュアルの整備
- 津波に対する避難路の整備や津波ハザードマップを活用した避難訓練の実施
- 空き家の実態把握、所有者に対する適正管理の指導
- 空き家等に関する転出時の単位自治組織での取り決めの検討



防犯・防災への対応の取組状況について、「実施し、効果があった」(69%)、「実施したが、効果が無かった」(9%)と8割近くが実施している。一方、「実施しなかった」が22%あった。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・山形県沖地震の経験を活かした地域の防災訓練を実施している。
- ・1日研修会で地域のハザードマップについて研修を行った。
- ・警察署員が積極的に高齢者等の集会に参加し指導を受けている。
- ・自主防災組織の見直しや津波避難路の再確認を行った。
- ・定期的に地震津波訓練を実施しており、昨年6月の地震時も住人は速やかに避難できました。防災用品購入用等の予算も新設しています。
- ・昨年の山形県沖地震の時に避難訓練の効果があった。
- ・昨年の地震でケガ人が一人もでなかったのは、少しでも火災訓練等の効果が反映したと思われる。
- ・消防団を主体とし、消火栓指導を各組ごとに実施した。防災意識向上。
- ・自主防災組織での定例見回りも実施している。空き家に対しても年間維持費を徴収し現在は機能しているが、何年か後には不安もある。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・山形沖地震後、炊き出し訓練等実施したが、コロナ等で対応に追われている。山形沖地震直後に役員で見回り等実施した。
- ・AED講習会、防災訓練を実施。結果はわからない。

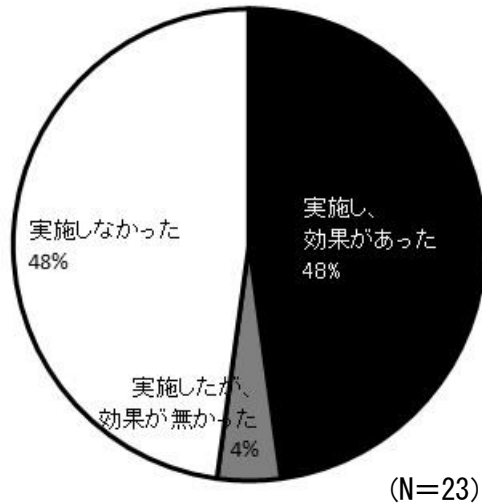
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・有事に備えた住民情報の把握と活用方法の検討。
- ・消防団組織の将来的なあり方については早急に検討が必要。
- ・近年各訓練を実施していない。

項目5. 次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくりに努めましたか？

★取組の具体的事例

- 若者に魅力のある地域づくりのための活動支援やリーダーの育成
- 伝統行事や伝統文化の継承への動機づけと支援
- 学校統合後の小学校及び中学校と地域との連携及び地域活動の推進
- 地域理解を深めるための学習支援



次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくりに
ついて、「実施し、効果があった」(48%)、「実施したが、
効果が無かった」(4%)と5割を超えて、実施している。
一方、「実施しなかった」が48%あり、そもそも地域に
若者や子どもがいない等の課題がある。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・自治会行事やお祭りなどに積極的に参加してもらい会員と子ども達のコミュニケーションをとる場を作っている。
- ・少年会活動の行事を増やし(自然とのふれあい)子供たちの郷土愛を育てた。
- ・小学校で「地域活性化プロジェクト発表会」を実施し、その実現化に向けて検討している。
- ・小学校では父母の会が主体となり小国太鼓の保存に努めている。小中行事では、育成部が主体で各種行事を行っている。(少子化不安)
- ・青少年育成部での山菜採り、孟宗をみんなで採り、父兄が料理をし子どもたちに食べさせたりし、効果があった。
- ・戸沢歌舞伎の伝承は効果大。
- ・獅子舞保存会で伝統文化継承に努めている。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・各年代のコミュニティ作りや祭典等集落行事に協力要請しているが、拡がりがない。

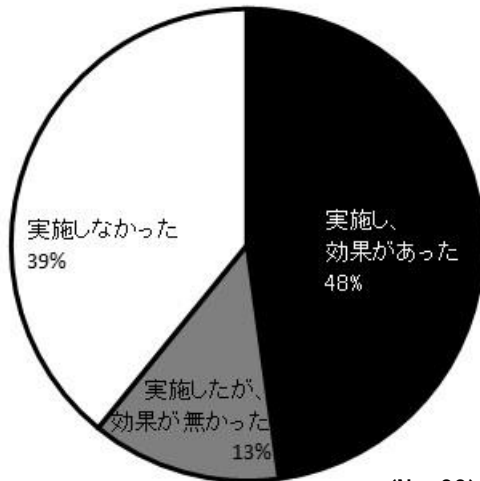
「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・特に取組みは行っていないが、地域全体で子どもを見守っている環境は従来から維持できている。
- ・公民館事業の見直しにあわせて、今後実施する予定。
- ・現行の取組みで十分と判断しています。リーダー育成の前に役員の負担軽減をしなければならないと思っています。役員の担い手確保が難しい。
- ・若者、子どもの数が近年激減しており、単位集落で可能な状況を超えている部分がある。
- ・若者、子どもがそもそも地域にいない。

項目6. 高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくりに努めましたか？

★取組の具体的事例

- 高齢者が持つ知識や経験を活かした地域づくりの推進
- 健康寿命の延伸（介護予防・健康づくり）を主眼にした事業の推進
- 日常生活での見守り・支え合い体制の仕組みづくりと強化



(N=23)

高齢者福祉の視点に立ったコミュニティづくりについて、「実施し、効果があった」（48%）、「実施したが、効果が無かった」（13%）と6割を超えて、実施している。

一方、「実施しなかった」が39%あり、老人クラブの解散等が問題視される。

≪自由記述から一部抜粋≫

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ミニデイを積極的に運営活動し高齢者の生きがいとなっている。自治会の総会等の議長等。
- ・公園に東屋を建てたことにより高齢者や子ども達が集まりコミュニケーションの場ができた。
- ・集落内で定期的にミニデイサービスを実施しています。百歳体操や研修旅行等で高齢者の交流は深まっていると思います。
- ・老人クラブの充実。65歳以上ほぼ全員加入していて、各行事等も充実している。
- ・放課後子ども教室へのスタッフ参加、あたたか弁当、さくら会（健康体操）等実施しており効果はでている。
- ・老人クラブ活動が、自治会に果たす役割は大きいものがあり、活動を円滑に進めることができるよう自治会全体での配慮に努めている。
- ・老人クラブの活動が活発で自治会活動にも協力している。
- ・買物支援移動販売を週3回来てもらいありがたいと思っている。

「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・高齢者世帯の増加について、公民館役員だけでなく地域全体で取り組み始めたところである。
- ・老人クラブの再度構築を期待しているが盛り上がりが見えない。
- ・厚生部が主体となり敬老会を実施しているが、参加人数が半分以下と低迷している。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

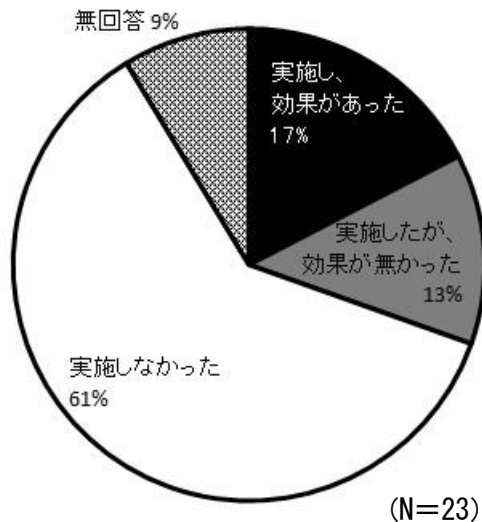
- ・現在の体制ではなかなか困難と考えている。
- ・昔あった老人クラブを復活させたい。
- ・老人クラブが解散した。

項目7. 広域コミュニティのあり方の検討を図りましたか？

★取組の具体的事例

○広域コミュニティ組織のあり方の検討

○広域コミュニティ組織に係る研修会の実施



広域コミュニティのあり方の検討について、「実施し、効果があった」(17%)、「実施したが、効果が無かった」(13%)と3割となっており実施率が低かった。

一方、「実施しなかった」が61%あり、集落が点在するなどの地域事情により広域コミュニティ組織の検討には至っていない状況にある。

《自由記述から一部抜粋》

「実施し、効果があった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ 第四地区のいろいろな行事を通して効果はあった。1～4 地区を一緒にする事は現在は時期尚早である。
- ・ 民生委員等と情報交換し、問題を共有し取組んでいる。
- ・ 厚生部、市と連携している事業に参加者より好評との連絡が来ている。

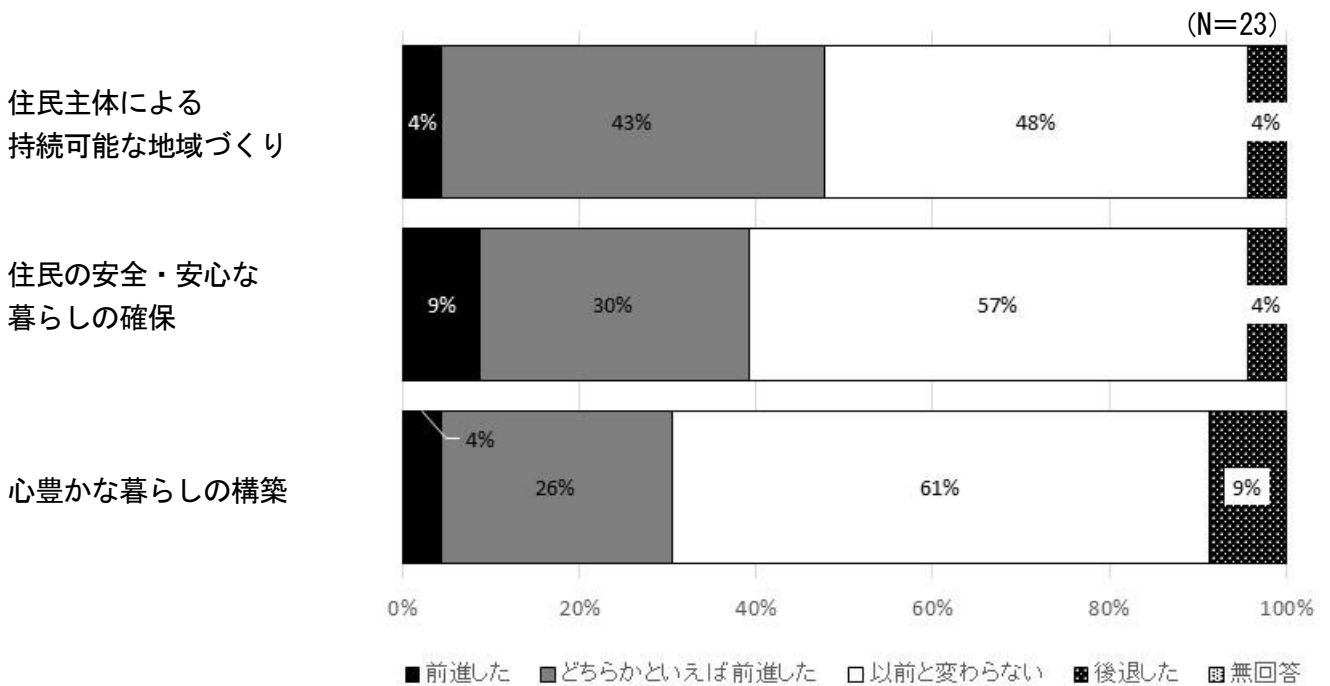
「実施したが、効果が無かった」 ⇒自慢できる取組や効果の有無を判断した理由

- ・ 自治会長会へも問題提起しているが、まだ議論できる雰囲気ではないようだ。
- ・ 女性部が主体となり各種研修会を実施しているが、少子化が現実であり盛り上がりに不安。

「実施しなかった」 ⇒その理由や必要であると考えている取組

- ・ 現状はまだ単位自治組織の運営が中心である。
- ・ 他自治会との調整が課題。
- ・ 集落が点在するなど温海地域における広域コミュニティ化は難しいものがある。
- ・ 自治会の高齢化により、行事等もできなくなっており広域コミュニティの検討は必要と思われるが、住民の意識として現状のまま行きたいという考えでまとまっている。
- ・ 単位自治会での検討は難しい。市等の指導が必要だ。
- ・ 単位自治組織で取り組むのではなく、温海地域としてどうしていくのか示す必要がある。

全般1. 地域コミュニティの目指す5年後の方向性について、計画策定時（平成27年度）と比べてどのように変化しているか教えてください

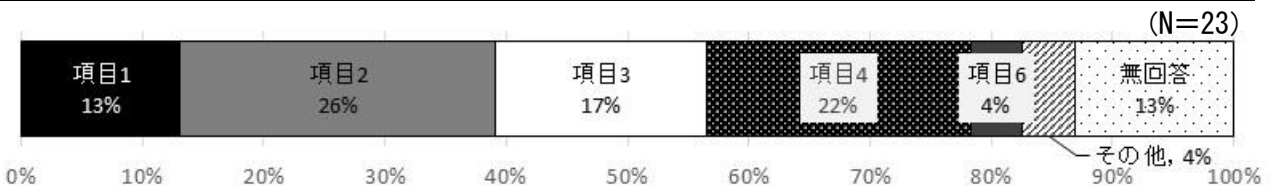


住民主体による持続可能な地域づくりは、「前進した」(4%)、「どちらかといえば前進した」(43%)、「以前と変わらない」(48%)、「後退した」(4%)となった。

住民の安全・安心な暮らしの確保は、「前進した」(9%)、「どちらかといえば前進した」(30%)、「以前と変わらない」(57%)、「後退した」(4%)となった。

心豊かな暮らしの構築は、「前進した」(4%)、「どちらかといえば前進した」(26%)、「以前と変わらない」(61%)、「後退した」(9%)となった。

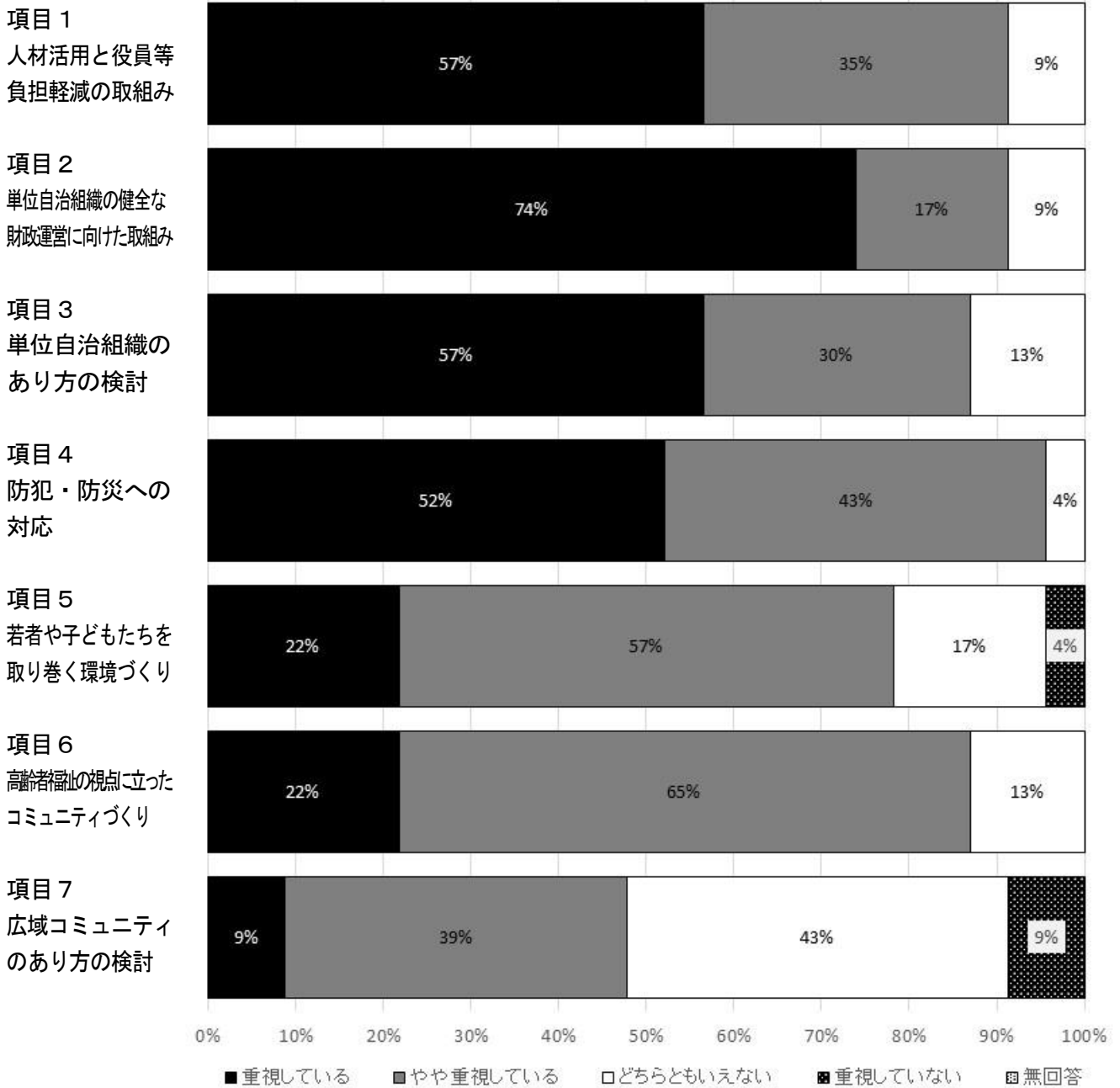
全般2. 項目1～7のうち、自治会が特に力を入れて取り組んだ項目を教えてください



特に力を入れて取り組んだ項目について、「項目2」(26%)、「項目4」(22%)、「項目3」(17%)、「項目1」(13%)、「項目6」(4%)、「その他」(4%)の順となり、「項目5、7」と回答した自治会はなかった。

全般3. 現在、項目1～7の取組をどの程度重視しているか教えてください

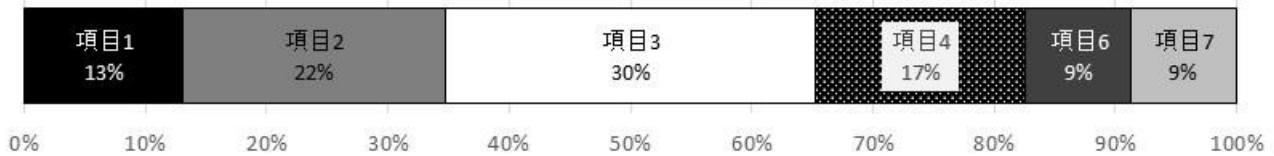
(N=23)



項目1は、「重視している」(57%)、「やや重視している」(35%)、「どちらともいえない」(9%)
 項目2は、「重視している」(74%)、「やや重視している」(17%)、「どちらともいえない」(9%)
 項目3は、「重視している」(57%)、「やや重視している」(30%)、「どちらともいえない」(13%)
 項目4は、「重視している」(52%)、「やや重視している」(43%)、「どちらともいえない」(4%)
 項目5は、「重視している」(22%)、「やや重視している」(57%)、「どちらともいえない」(17%)、「重視していない」(4%)
 項目6は、「重視している」(22%)、「やや重視している」(65%)、「どちらともいえない」(13%)
 項目7は、「重視している」(9%)、「やや重視している」(39%)、「どちらともいえない」(43%)、「重視していない」(9%) となった。

全般4. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=23)



今後力を入れていきたい項目は、「項目3」(30%)、「項目2」(22%)、「項目4」(17%)、「項目1」(13%)、「項目6」(9%)、「項目7」(9%)の順となり、「項目5」と回答した自治会はなかった。

《「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋》

- ・少子高齢化、人口減少に伴い事業財政ともに負担がおおきくなってきている。現在地縁団体へ移行することについてのメリット、デメリットを検討中である。
- ・新たな事業を取組んでも、特に補助事業は今の人手不足では維持管理ができないのが課題。
- ・どうしたら自治会に人口や世帯数が増えるかみんなで考えたい。
- ・組織の見直し（公民館事務員の削減、開館時間の見直し）。三集落（関、興屋、原海）の静かなる統合と経費削減。
- ・鳥獣対策は農作物被害により特に高齢者の生きがいが損なわれている。クマは人命にも関わる重要問題。

全般5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください

《自由記述から一部抜粋》

- ・近い将来単位自治組織の運営は限界が来ると思われる。地域コミュニティとの連携について意志の統一が必要と思われます。
- ・避難場所での不安解消のため備蓄品を購入し災害時の準備、備えをしている。今年度は発電機2機購入。第2避難場所（あつみ小）での防災訓練を実施したいと思うので市との協力のもと実践訓練。
- ・今後、役員・委員になる世代の人数は少ないという状況に変わりはないため、各種行事等を簡素化しなければ地域活動の持続は厳しいと思います。
- ・自治会費が4,500円/月と高く下げたいが予算が足りない。市からの交付、補助金増額を検討願いたい。
- ・山形県と公民館との連携不足（河川課等）、県は公民館とのコミュニケーションが不足している。鶴岡市は住民への連絡が（特に思いつき）多く自治会の有線放送にたよるケースがある。休日でも依頼する（プレミアム商品券訂正、知事市長のコロナへの対応、しかもさらに訂正があった）等、最後は自治会へたよりすぎている。
- ・自治会所有の山林に係る税等、義務的経費の負担が将来的にさらに大きくなることから、コミュニティの維持に向けこうした課題に、庁舎においても真正面から受け打開策を共に検討していただきたい。手遅れにならないうちに
- ・有線放送設備が限界にきている。有線放送に替わる情報伝達手段が必要→役員の負担軽減、防犯、防災、高齢者福祉、コミュニティの維持にも影響がある。早急に解決しなければいけない課題である。コミュニティ維持のためには単位自治組織でよいが、地域の振興や活性化には広域での取り組みが必要。
- ・これから集落を担う40代～50代限定による交流施策により自治会運営へ活躍できる組織の拡充。
- ・今後は役員のなり手不足が深刻になると心配している。

問1. 貴自治会等のコミュニティ活動の良いところ（特徴、魅力など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・小世帯、少人口のためまとまりがある。事業の開催等についても理解がある。
- ・防災意識が高い。観光業のことも考えていただきとても感謝しています。
- ・自然環境が良い！海、山、川があり四季を通じてさまざまな地域活動（祭り、運動会、海水浴等）を行うことができる。
- ・世帯数が少ない分状況把握がしやすい。活動等も可能な範囲で行っている。
- ・各自治会組織の部会の方々それぞれ大変頑張っていて活動している。三地区の総代、部長等大変一生懸命である。
- ・自治会の行事等には人口が少なくなっている所以一人一人の意識が変わってきており、参加率が良くなっている。
- ・伝統文化の継承やイベント等を通じて会員の交流があること。
- ・小さいながらも規模にあった活動をしている。みんなが協力してできる範囲のことをやっている。
- ・担当部署だけでなく、会長を筆頭として自治会全ての役員、部長が活動に参加協力している。
- ・戸数も少ないため、互いに協力し合って高齢者でも地域で生活していけるようにしている。
- ・人口、世帯数の減少、又働き方の多様化によりコミュニティ活動は困難となりつつあります。協動的でまとまりのある集落であると思います。

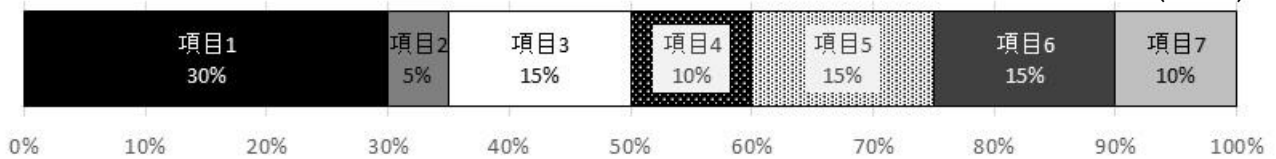
問2. 貴自治会等のコミュニティ活動の足りないところ（課題、問題点など）はどのようなところだと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・いろいろな考えの方がいるので一つの方向に導くのは大変だと思います。
- ・高齢化が進んでおり、世帯数が減少していることから自治会活動やその他活動においても一定の家庭に役割が増えている。
- ・子供や若者（特に女性）が少なく活気がいまいち少ないのでは。
- ・女性陣の活躍の場がいまいち拡充されておらず、集落のコミュニティ活動に、ほとんど参加できていないところ。時代を担う世代と自治会役員または高齢者間の意見交換が少ない。
- ・自治会事業に参加者が少なく自治会役員が苦勞している。
- ・人手不足。特に若者。コミュニティ活動が制限される。
- ・高齢化により自治会としての行事を開催できなくなっており、また老人クラブも解散してしまい、高齢者が集まる場もなくなっている。
- ・頑張っている方々への協力ではなく逆に批判したり足を引っ張る人がいる。
- ・少子高齢化により自治会運営等小規模化している。あわせて共同作業や各世帯の負担金など今後課題となってくる。
- ・小さい地域なので共同作業において一人一人が貴重な存在であるが参加されない（参加しようとしにくい）世帯がある。

問3. 項目1～7のうち、今後力を入れていきたい項目を教えてください

(N=20)



今後力を入れていきたい項目は、「項目1」(30%)、「項目3」(15%)、「項目5」(15%)、「項目6」(15%)、「項目4」(10%)、「項目7」(10%)、「項目2」(5%)の順となった。

≪「具体的に考えている事業や取り組んでみたい事業」の自由記述から一部抜粋≫

項目1

- ・時代を担う世代、女性陣、自治会役員等による意見交換、交流の場をつくること。集落をもっと好きになる、集落について考えてみようかというきっかけなど機会をつくること。自治会員それぞれに自分が自治会の一躍を担っているという自覚をうえつけること。
- ・全部大事な項目だと思います。青年団の方々の年齢も上がってきていて若い人が減ってきていますが持続していくため皆さん悩んでいるところです。

項目2

- ・健全な自治会運営に向け、地縁団体への移行を検討している。

項目3

- ・自治組織のあり方の検討。1. 関、興屋、原海の統合。2. 公民館の開館時間の見直しと経費削減。
- ・人口減少による各部の再編に伴い人件費削減。

項目4

- ・現在新規の事業についてはいくつかの案はありますが、実際にはいかに現状を維持すべきかを考えます。

項目5

- ・子供を育てている現状にありますが、どこの土地、地域と比較しても負けないくらいに子育て環境には良い地域だと思っております(温海全体=旧温海町)。これからは若者世代を温海に誘致するなど、いろいろPRする機会などを設け、人口減少対策などを行っていければよいと考えます。
- ・若者が鶴岡市内に移住してしまうのは大きな問題です。魅力ある観光地となり、働く場所が増えるよう取り組んでいる最中です。
- ・高齢者から子供たちへ生活の知恵を学ばせる。農業、山菜採り等。

項目6

- ・高齢者でも可能な健康づくり(ウォーキング、ボッチャ等)。

項目7

- ・小さな拠点づくりの事業に取組み旧五十川小学校を拠点にしたコミュニティづくりを推進しています。アンケートを実施して次は会を立ち上げる準備をしています。

問4. 貴自治会等の住民が安心して、楽しく暮らすために、どのような取組（事業など）が必要だと思いますか。

《自由記述から一部抜粋》

- ・自主防災組織の機能強化、高齢者世帯のバックアップ。
- ・花、ベンチ、休憩スペースのメンテナンス活動。魅力ある店舗の創生事業。
- ・自然災害が多発傾向にあるので、海、山、川を抱えている自治会として、みんなが災害対策意識を持つこと、また有事に備えること（定期的な訓練を継続して行う）が大切だと思います。
- ・人口減少、高齢化に負けない皆で楽しく暮らす事業なんてそう簡単には見つかりません。誰も人口が増えるなんて思っていないしそんな中にも絶対何かあるはずです。
- ・去年の地震の記憶もいまだに生々しく防災についての取組み、又高齢者の迅速な避難なども考慮すべきかと思います。
- ・1. 防災への対応→災害がおきた場合の避難所で三密にならないようにする取組み。防災意識を高める工夫が必要。2. お互いの思いやり（あたたか弁当、隣組での声掛け運動等）が必要。3. 健康（健康体操→さくら会、グラウンドゴルフ）。
- ・住民同士の良い関係の構築をできるような機会をつくる。既存の行事などを参加できない高齢者等が参加できるような工夫をする。
- ・現状では相互の助け合いでなんとかなっているが、この先買物支援や移動手段の確保が課題になってくると思われる。また消防団員の確保ができず防災体制にも不安がある。
- ・有事の際の行動等のありかたをもっと具体的につめる必要があると思う。

問5. その他、地域コミュニティに関してご意見がございましたらご記入ください。

《自由記述から一部抜粋》

- ・当自治会も少子高齢化に伴い事業等縮小しています。広域コミュニティ組織との連携が必要になると予想されます。
- ・温海はとても素敵な地域であり、生まれ故郷として誇れる場所です。今後も素敵な温海を守り続けていけるよう、また地域を盛り上げて行けるよう地域活動に皆さんが積極的に参加する環境を整えば良いかなと思います。
- ・活動することに意味があるのではなく、やはり結果が必要だと思います。数多くのコミュニティを見てきましたが、活動を始めることを重視して結果をみないまま終わってしまう例が多くある様に思う。
- ・新型コロナウイルスで地域コミュニティとしてのすべての行事が中止となっている。コロナの時代にどうしたらコミュニティとしての行事等ができるか考えていかなければならない。（コロナを恐れてすべて中止では工夫がない。前向きに考える必要がある。）
- ・住民にとって、自分の健康を維持することには大変興味を示し、健康教室などには参加者が多く良い事だと思っている。
- ・道路舗装の傷み、河川の成長した草木などが集落の景観を損ねている。管理者による適正な管理を。
- ・この地域には釜谷坂隧道というトンネルがあって数年前より通行止めとなっている。先日工事について説明があった。最近の地震でも被害のなかったトンネルを通行止めにしておく理由というのは、行政の意向とか都合なのでしょう。心配事は明日起こるかもしれないし、100年後かもしれない。現実温海方面に向かう場合に見通しの悪い交差点から国道に出る際に事故にあうのと、トンネルの崩落にあうのはどちらが確率が高いのかはわからないが、毎日原付バイクで買物するために国道を歩いて行く、トンネルを通れないために遠回りを余儀なくしている。温海地域の人との交流が疎遠になっている。何を言っても変わらないのは十分過ぎるほど理解しております。現実の報告です。
- ・当集落ばかりが高齢化が進み人口が少なくなり自治会運営がなりたたなくなる。（集落の合併を考えるべきか）